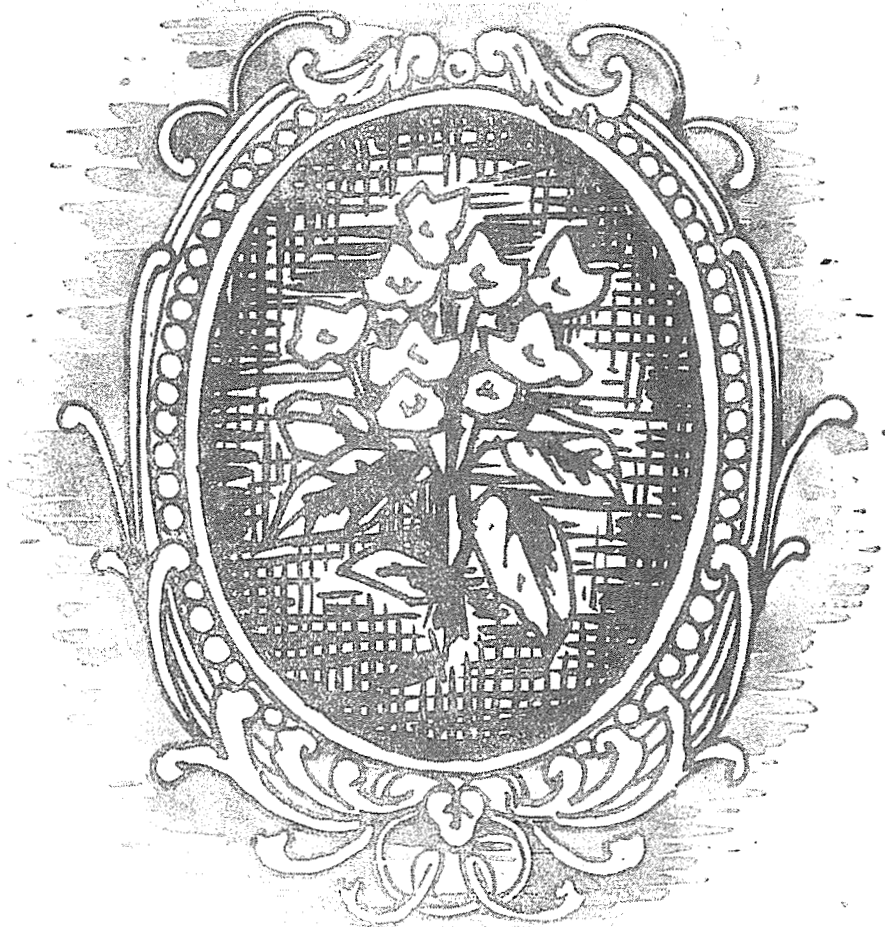


新西大學生報

第 七 十 六 號

昭 和 十 五 年 二 月



關 西 大 學 學 報 發 行 局

關西大學教授 片山正直著

倫理學新講

菊 判 上 製
三 三 二 頁
定價 貳圓八拾錢
送料 貳拾錢

◆ 刊 新 最 ◆

凡て生きた學問は時代の建設運動と結合し、進んでその魂とも光ともなるものを教示するのではなくてはならないが、このことは特に「倫理學」に於て肝要であらう。まさしく新なる時代は、新なる生命と内容とに溢れた「倫理學」を必要とする。本書はこの時代の要望に應へようとして生まれたものである。即ち本書は現代我が國の情勢下に、倫理の基本問題が如何に把握せられ、如何に實踐せらるべきかを十分に教示するであらう。

本書は「歴史的共同體的現實在」の分析より出立して、これを一貫する「根本倫理」を確立し、進んでそれが「徳」として「共同體の體系」を媒介して、如何に展開實化せられるかを根本的に説明してゐる。加へてこの間に、本書は現下の諸種の思想問題とも對決し、明快適切なる解答を與へようとする。しかも貫くに整然たる論理を以てし、從來の低調な倫理學概論書には見られない體系的構成を持してゐる。廣く現下の建設的問題に關心を持たれる人々に一讀を勧める所以である。

內容概目 倫理的現實在——倫理學の課題・目的・方法——現實在の構造——倫理的自覺——根本倫理の

確立——倫理生活の成立——三つの根本徳——共同體の體系——倫理的世界觀

東京 振替 電話
駿河 田 電話
臺中 一八二二
中央 八三二二
大學 八二二二
前學 番

大 同 書 院

大 振 電
阪 答 話
北 大 北
區 阪 一五
梅 一六七
田 九七五
新 七五五
道 二二二
番 番

目次

紀元二千六百年

紀元節に當りて……神戸正雄 (一)

經濟問題の緊迫……森川太郎 (三)

伊豆早春……白川朝帆 (五)

新刊紹介……來島志朗 (七)

學内報…… (八)

卒業進級試験日劇—紀元節式典—耐寒訓練—喜門部國漢科漢文學力文部省試験—喜門部英語科文部省學力考査—人事異動—鶴見守義氏逝去—大倉鈕藏氏逝去—かくほう抄

校友…… (九)

校友會常議員會—徳島支部發會—川邊支部—愛媛支部—大連支部—新京支部—海爾會—會員消息

學生彙報…… (一六)

商業研究會—東亞研究會—法學研究會—庭球部—千里山馬術部—フエンシング部—柔道部—ホッケー部—山岳部

紀元二千六百年の紀元節に當りて

法學博士長 神戸正雄

今日紀元二千六百年の紀元節を迎へたことは吾等國民の喜びに堪へざるところであり、又慶賀措く能はざる所である。

今より二千六百年の昔に於て、神武天皇が皇國の基礎を築きたまひ、永遠に發展すべき道義國家を肇めたまふた、其の功業は實に偉大であり、吾等、後昆の者としては力を竭して之を守り続け、愈々之を榮へしめなければならぬとする。

そして神武天皇が此の肇國の大業を成し遂げたまふについて親しく御骨めになつた御苦心御苦勞を偲ぶにつけても、今更らながら、現在お互が翼賛しつつある所の昭和時代の新東亞建設事業についての、お互現代國民の努力及犠牲の尙ほ足らざるものあるを自省しなければならぬ。

事變始まつて以來、未だ二年八箇月にしかならぬのに、國民は既に其心權に弛緩を生じつつは居ないのか。彼等の間に事變處理につきて意見の對立が出來、隨つて摩擦を生じつつは居ないか。今年議會開會の初めに於ける紛争、其より生じたる社會の反響の如き、之を聞くだけでも不愉快至極に感ぜられ、慨嘆に堪へない次第である。

國民は此際、一層緊張した氣持を取返へし、堅忍持久、舉國一致の態勢を續けなければならぬ。飽迄も有らゆる不自由を忍び、困苦缺乏に堪へるやうに心掛けなければならぬ。各人、其分に應じて出來得るだけのものを以て此現代の大業を完成することに邁進しなければならぬ。

紀元節を奉祝するに於て舊來の慣例による儀禮を盡すことは勿論、忽にしてはならぬとするけれども、其よりも一層大切なことは、今日の時局に對しての心權をもつとしつかりと建て直すこと、そして此大業の扶翼に邁進することであり、其が實に此の二千六百年の紀元節を奉祝する一番適切なる方法であるといふことを忘れてはならない。

經濟問題の緊迫

— 統制の過誤か、經濟力不足か —

教授 森川太郎

前回の歐洲大戰に於て、ドイツは戰鬪に勝つて戰爭に負けたと云はれてゐる。洵に近代國家間の戰爭に於ては、單に戰場に於ける武力の優劣のみに依つて、勝敗の數は決せられ難い。屢稱へられる如く近代戰は所謂國家總力戰であつて、武力の外に政治、經濟と外交思想、宣傳等國民生活の多方面に亘る謀略が何れも夫

のジュネー号の悲劇が一時世界の耳目を聳てしめたるに止まる。表面的な戰況より推せば、交戰諸國の戰意の程が疑はれる位でさへある。

夫の力を以て、全局的なる勝敗を決するところの要因となる。此間に在つて就中經濟の要因が働かざるを得ない。此間において、過ぐる大戰に於けるドイツの敗因も主として此點に存したであらう。即ち經濟力の涸渇に依つて銃後の國民が飢餓に瀕し、延いて第一線に在る將兵の士氣を沮喪せしめたことが、内部より帝政ドイツの崩壞を生ぜしめた最大の原因であつたと考へられる。昔から腹が空つては戰は出来ぬのである。

しかし一見靜かなる戰線の背後に、敵味方何れも國の總力を擧げての眞劍なる戰が戰はれてゐることを、吾々は見落してはならない。而して其戰とは、名附くれば經濟戰と稱して略誤りなき戰である。先づ英國の作戦は經濟封鎖の強壓に依つてドイツを窒息状態に陥らしめ、以て更に疎らずして勝利を博せんとするにあるものゝ如く見える。即ち其優越せる海軍力を以てドイツの海上通商路を遮斷し、ドイツへの物資輸入を吐絶せしめると共に、更に獨貨拿捕令に依つてドイツが輸出を通じて輸入資金を獲得することを妨害してゐる。ドイツは固よりソ聯との提携、バルカンへの進出策等に依つて必要物資の補給を確保せんと努めてゐるが、英佛は亦イタリーへの接近、トルコとの同盟條約等に依つて、此方向に於けるドイツの活路に一石を打つことを忘れてゐない。英國の海上封鎖に對するドイツの反撃、進んでは英國通商路の破壞作戦は、其制限せられたる海軍力の故に、現在のところ前大戰に於ける程效果的に行はれてゐないやうである。ジュネー号の最後は此作戦の痛ましき犠牲であつたであらう。

戰鬪を第二段とし、何よりも先づ敵國經濟力の破壞自國經濟力の確保に努力を傾倒する所以は何であるか勿論其理由は詳しく見れば一にして止まらないであらう。しかし大體に云へば經濟力が近代的戰爭の數を決する最後の要因である、と彼等、特に英國人は考へてゐるからである。即ち戰場に於て巨大に消耗せられる武器彈藥を補充し、精銳なる兵器の多數を整備せしむるは一國の經濟力であり、戰線の將兵、銃後の國民に等しく生活の安全を保證するも亦其國の經濟力であらう。戰爭に於ける經濟的の要因の重要性を過大視することは固より避けなければならぬが、今次の大戰に於て夫の重視せらるゝ理由は斯くて容易に首肯せられ得る。

斯様な觀點から今次の歐洲大戰を眺めると、其處に極めて示唆的なものが見出される。蓋し從來の通念を以てすれば今次大戰の推移は一見奇異にも觀せられるであらう。豫期せられしドイツ空軍の英國大襲撃は敢行せられず、西部戰線は最初より固着状態であつて、華々しき攻防戰は一向に展開せられる様子がない。海上に於てもジボートの活躍は前大戰に於けると比較にならず、維かに英近海の機雷戰とモンテヴェイデオ港外

今次の大戰に於て交戰各國が、斯くの如く武力に依

續つて我國の現状は如何。聖戰第四年を迎へ、大陸に於ける反共親日政權の樹立も程近きにありと云へ聖戰目的の達成には尙長期を要し、加へて變轉極りなき國際情勢に備へふる爲めに、國內の戰時體制は益強化せられざるを得ざる事情に在る。云はゞ我國も亦現在純然たる戰時下に在り、而も其戰時状態は今後高幾年か連続するのである。此秋、脚下の經濟情勢は果して如何なる相貌を呈しつゝあるか。殊に最近の情勢は我國民經濟の將來に一抹の暗影を投ずるものではないか否か。現に人々が不言不語の裡に最大の關心を寄する問題の一は、恐らくこれであらう。

二

率直に云へば我國近時の經濟情勢は決して普通ではない。而して其異常状態が際だつて來たのは、知らざる如く昨年九月の物價急騰以來である。即ち我國内物價は支那事變發生以來一路騰勢を辿り來つたが、暴利

率直に云へば我國近時の經濟情勢は決して普通ではない。而して其異常状態が際だつて來たのは、知らざる如く昨年九月の物價急騰以來である。即ち我國内物價は支那事變發生以來一路騰勢を辿り來つたが、暴利

取締令、公定價格制度等に依る政府の抑制策、海外物價の下落等に牽制せられて未だ暴發的な騰貴を演ずるまでには至らなかつた。殊に昨年四月には中央物價委員會に依る物價統制大綱が決定せられ、低物價を旨とする物價政策の大本が明かにせられたのであるが、九月に入ると第二次歐洲大戰の勃發と共に海外物價の反騰に刺戟せられて、思惑人氣旺盛となり九月の指數は八月に比し、一舉五%を上げると云ふ急騰を示したのである。物價の急騰は必然に買占め、賣惜みを伴ふ。而も其騰貴は小賣物價に於ても顯著であつた關係から、營業者のみならず一般消費者の間にも買急ぎ、買留めが行はれ、一層事態の急迫を訴ふるものがあつた。茲に於て成立早々の阿部内閣は應急對策として、九月十八日の高さを限度とする一般的物價引上停止の處置を採る旨を公表し、十月には國家總動員法に基く關係法規の實施を見て、物價の騰勢は表面上一應緩和せられるに至つた。

しかし諸物價の間の不均衡は勿論未だ調整せられず且つ先高見越の人氣も跡を絶たず、其結果として隨處に諸商品の出廻り難、市場に於ける品がすれの狀態が代つて現出した。米、木炭、砂糖、マッチ等々の拂底は多くの人々が現に尙身を以て體驗しつゝあるところである。然るに政府はこれが對策として、一方に一般物價停止の政策を採りつゝ他方に於て米、木炭、絹織物等の公定價格を引上げ、剩さへ煙草の値上げを行つた爲めに、政府の物價政策に對する疑慮と不安を喚起し、従來も行はれてゐた闇相場、闇取引が半ば公然と横行するに至つてゐる。故に指數にあらはれた物價騰貴の趨勢は左の如くであり(昭和十二年七月一〇〇)昨年十二月では事變直前に比し卸賣物價約三〇%、小賣物價約四〇%の騰貴率を示してゐるが、實質上の騰貴は更に大なる割合に達してゐるであらう。

(昭和十三年) (昭和十四年) (昭和十五年) (昭和十六年) (昭和十七年) (昭和十八年) (昭和十九年) (昭和二十年)

卸賣物價 二二・七 二二・三 二一・七 二一・六 二一・五
小賣物價 二四・二 二三・九 二二・九 二二・二 二一・四
物價の騰貴は云ふまでもなく反面に通貨の膨脹を相伴ふ。試みにこれを日本銀行兌換券發行高に就いて見れば、發行高増加の傾向は既に七、八月頃より顯著であつたが、十月末には遂に二十八億圓を突破し、去る四月に保證發行限度五億圓の擴張が行はれたるにも拘らず、早くも一億圓以上に及ぶ限外發行を見ることとなつた。而も膨脹の勢は引續き止まず、昨年末の發行高は三十八億一千七百萬圓と云ふ未曾有の數字を記録したのである。これを十三年末の發行高二十七億五千四百萬圓、十二年末の二十三億五百萬圓に比較すれば昨年度の急膨脹に今更ながら驚かざるを得ない。

物價騰貴と通貨膨脹とが互ひに因となり果となつて急調に進行する結果は、所謂悪性インフレーションであらう。我國に於ける上記の狀態から直ちに悪性インフレーションを豫想することは固より早計であり、嚴に戒むべきであるが、勢の激するところは時に冷靜なる推理の豫測を許さぬものがある。而も阿部内閣は斯くの如き情勢に對處する實行的方策を著々講ずるの用意を缺き唯總額に於て百億圓を超え、公債發行高に於て五十數億圓を算する十五年度豫算案を遺したるまゝにて、議會再開を前に腕も崩壊し去つた。後繼内閣は當然此經濟難局を強力に打開する使命を負ふて生れ出でねばならぬ。再出馬を豫想せられた近衛公は、經濟問題に自信なしと云ふことを理由の一として出でず、結局米内内閣が出現したのであるが、新内閣は成立早々又新なる經濟問題に當面せざるを得なかつた。即ち電力と石炭の問題これである。電力の不足が産業活動の根幹に致命的打撃を與へ、延いて軍需生産、生産力擴充の上にも由々しき障害となることは云ふまでもないであらう。更に又交通、通信の諸機關、電燈、電熱等の利用に影響し、一般國民生活をして益不便不利に陥らしむることも明瞭である。電力の不足は主として日本發送電會社の石炭購入難に依ると云はれるが、他方石炭は積出港に山積せられてあるとも傳へられる。石炭は果して不足であるのかどうか。

斯く見來ると戰時下の我經濟情勢が、今や多面的に著しき異相を呈しつゝあることは蔽ふべくもない。此異常狀態の因つて來るところと、其今後の見通しとは如何に考へらるべきであらうか。

三

暫く統制の作用を別とし物價を中心に考へると、戰時下に於て物價の騰貴することは經濟の理法よりして寧ろ必然である。蓋し物價は物財に對する需要と供給の關係に依つて定まるに對し、戰時下に在つては戰爭の遂行に必要な物資の需要が巨大に増加するからである。勿論斯かる政府の軍事需要も現實に立ち働か爲めには購買力を伴はねばならぬが、我國の場合支那事變費は主として公債發行を通じて調達せられ、而其公債發行は多く日本銀行引受の方法に依つてゐるから、所謂日銀の通貨造出機能を通じて、必要な購買力は隨時政府の手にし得るところとなつてゐる。左に事變發生以來の臨時軍事費豫算額と、其財源に充てられたる公債發行豫算額とを標示する(單位百萬圓)

臨時軍事費	二、五〇〇	四、八五〇	四、六五〇	四、四〇〇
公債發行額	二、四三九	四、四三三	三、六七四	三、六七七

然るに又近代戰に缺くべからざる航空機、裝甲車、高角砲、自動火器等は何れも高度に發達せる機械工業の生産物であり、軍の需要に應じてこれ等の資材を供

給する爲めには、直接其生産に關與する諸工業及び其基礎となる重工業並びに補助産業の生産力が充分に大でなければならぬ。従來我國に於ける産業の發達は寧ろ纖維工業を中心とする輕工業に偏してゐたから、軍需の急増加に對しては即ち前記軍需工業並びに重工業の急速なる發達を圖るの必要があり、茲に所謂生産力擴充政策が強行せられねばならぬこととなる。然るに生産力の擴充又は工場、機械設備等の新設、擴張を意味し、其爲に更に諸種の物資に對する需要が喚起せられる。政府が斯かる生産力擴充の爲めに必要と見積つた金額は、昭和十三年度約三十億圓、十四年度約四十億圓であるが、其大部分は軍需と相並んで新たなる物資需要となり、國民經濟の上に其作用を及ぼしてゐるのである。

更にこれ等の軍事需要並びに生産力擴充資材の需要は轉じて又、國民一般の消費需要の増加を結果する。即ちそれ等の需要を通じて支出せられる購買力は、結局賃銀、利子、利潤等となつて何人かの所得に歸するのであるから、それだけ國民所得は増し従つて國民の消費支出も多かれ少かれ増加するからである。尤も國民所得の増加したゞけ貯蓄が行はれたならば、民間の消費需要は増加せず、結果より見て軍需及び生産力擴充が國民貯蓄に依つて賄はれたことになるのであり、其爲めに貯蓄獎勵策が力行せられてゐるのであるけれども、事實に於ては左様に圓滑に運ばない。此關係は何よりも公債の消化狀況に表示せられる。即ち日銀が公債引受を通じて造出した通貨が政府に依つて支出せられ、それが國民の所得となり、貯蓄せられて銀行に還流すると、銀行はやがてそれを以て日本銀行から公

債を買取る、然らば公債は消化せられたのであり、通貨は再び日銀に還つて通貨の膨脹を惹きないのであるが、實際には此公債の幾分かづつが賣残つて不消化となり、先に見たるが如き通貨膨脹を來してゐるのである。試みに昭和十二年以來の公債發行高と其消化高とを對比すれば次の如くである。(單位百萬圓)

	昭和十二年	十三年	十四年
公債發行高	一、四八五	四、三三三	五、六三三
公債消化高	九四四	三、七九〇	四、七九〇
消化率	六三・五%	八七・五%	八四・三%

斯くて、我戰時經濟下に在つては軍需、生産力擴充資材の需要、民需が交々相競つて増大する狀況に在る。これに對して物資の供給が同じ程度に増加すれば固より問題はないのであるが、云ふまでもなく我國國民經濟の物資供給力即ち生産力には自ら一定の限度がある。而して此生産力の限界は凡そ我版圖内に於て利用し得る自然的資源、勞働力、既存の資本設備等に依つて定まり、それ等が既に一〇〇パーセントに利用せられつつある状態(即ち失業者も休眠資本設備も存在せざる所謂完全雇傭の状態)に達したる上は、それ以上に生産高の増大従つて物資供給の増加を圖ることは、甚だしく困難となる。我國の實狀では大體昭和十二年頃に於て既に此完全雇傭の域に達したと見るを得べく、それ以後に於ては生産力擴充即ち軍需産業の擴張が主に平和産業の抑制、縮小に依つて遂行せられてゐる有様である。資金調整法に依る投資の統制や平和産業從事者の轉業、轉職の奨励、學校卒業生及び一般青少年の雇入に關する制限等の諸政策は、一に此必要に出づるに外ならない。

尤も必要な物資は外國より輸入することが出来るしかし對外借款を爲さざる限り(而し我國の現在に於てはこれを爲すことは不可能である)輸入に對してはそれだけ何等かの物資を輸出せざるを得ず、其輸出品は矢張り國內産業の生産物であるから、輸入品も亦國內生産力の利用に依つて獲得せられねばならぬ關係は國產物資の場合と同様である。我國昭和十四年度の貿易は全體として八億五百餘萬圓の出超を示してゐるが(外地の對外貿易を含む)、これを内地の貿易に就いて見ると滿支等所謂圓プロックとの貿易尻は十億六千餘萬圓の出超であり、第三國との貿易は四億六百餘萬圓の入超となつてゐる。此事は即ち滿・支等に對しては主に經濟建設の爲めに、貴重なる國內の物資を更に十億六千餘萬圓程度彼地に持出し、第三國よりは——恐らく金の現送等に依り——五億圓餘に當る必要物資の供給を受けたることを意味する。

以上の如く考へて來ると、近時我國に於ける民需物資の不足は寧ろ當然に起り得べき結果である。若しこれを需要・供給の作用が働くまゝに放任せんか、蓋し物價の昂騰は避け得られない。此物價を統制に依つて強壓せんとしても、却つて闇相場、闇取引の弊害を助長するに止まるであらう。然りとすれば現時に於ける我經濟情勢の異常は、全く斯くの如き民需物資の不足適つて云へば民需物資生産力の絶對的なる不足に歸因するものであらうか。

四

我國經濟の異常現象が、一に明白なる民需物資又は民需物資生産力に基くものとするならば、これに對する有效なる對策は民需の切下げ即ち國民消費の切詰め

伊豆早春

高松 白川朝帆

伊豆山ふところを出て二月富士
天城越ゆ杉の八千銚返え返り
倒れ木に添ひて残れる谷の雪
焚火守る犬人の如く人を見る
杣歸る手捕の兎首に纏き
天城山越えて來つれど春淺く
香煙もお吉の墓も春淺し
春寒の寝姿山を軒の端に
春寒の星の青さや修善寺
麥の芽に日輪まるぶ丘まるく
養蜂衰し如月の野の風に出づ
巢を出て、すぐ悴みて養蜂歸る

筆者紹介—大正十一年専門部法律科卒業、前香川
縣會議員、高松市に於て辯護士開業中

以外にはあり得ない。しかし此結論に急ぐ前に、吾々は尙一考を要すべき一の問題を有つてあらう。それは即ち近年政府當局の採りつゝある諸の經濟統制の問題である。第一に政府は、物價に就いては一貫して低物價政策を固持してゐる。而も物價騰貴が必然に生ぜざるを得ざる環境に於てゐる。此云は環境に逆行する政策が、物資の不足を一層甚しからしめ、又は其他諸の經濟的矛盾を更に激化せしめてゐないであらうか物價が過當に低き爲めに、現に存在する物資が市場に出廻らず、或ひは生産が阻害せられてあるべき供給が現時に持ち來らざれず、依つて徒らなる混雜を招きつつある事も想像せられないではない。一般的に云つて諸の經濟統制が却つて今日の禍因ではないかと云ふことが又考へられる。

一例として米の問題を見よう。農林省の發表に依れば昨十四年度全國米穀實收高(朝鮮及臺灣を除く)は六千八百九十九萬石餘であつて、周知の如く部分的には關西地方の旱害等があつたがそれに基づく收穫減は他地方の豐作に依つて償はれ、全體としては十三度收穫高に比し三百二十二萬石餘(四七%)の收穫増となり、十四年度増産目標六千七百四十六萬石に對しても百五十三萬石(一三%)の増收を示してゐるのである。尤も朝鮮に於ける旱害の爲めの收穫減約四割、臺灣の不作、事變下に於ける消費増加等をも考慮せねばならぬが、それにしても收穫期に於て米の缺乏が生ずる筈はない不足が生ずるならばそれは十五年の端境期に於て生ずべきであらう。にも拘らず人々の經驗せし如く昨年の秋より冬にかけて、消費地に於ける米の拂底は否定すべからざる事實であつた。

即ち問題となつた米の不足は米の存在量の不足ではなく、米の出廻り不足又は其配給の不圓滑であつたことと明かである。而してこれが原因は云ふまでもなく公

定米價の他の諸商品に比しての割安、従つて其先高見越に基く農家又は米穀商人の憤懣乃至買占めに依りしものであらう。換言すれば此場合米價の公定制度なる統制政策が、却つて經濟の平滑なる運管を攪亂し、國民の生活を脅かしたことになる。現に缺乏を訴へらるゝ他の諸商品に就いても、凡そこれに類した關係よりして其不足の生じつゝあるものが無しとは斷言せられ得ないであらう。

暫く思惑又は投機的作用を度外視するとしても、或商品の代價が其生産費を償はざる場合には、假令勞働力、資本設備等の生産力に餘裕があつても、其商品の生産は行はれない。何人も損失を負擔しつゝ財貨の生産又は供給を行ふことはしないであらう。これは價格經濟の下に於ける一般の原理である。従つて物價を低位に抑制しつゝ生産力を完全に活用して物資の供給を行はざる爲めには、財の價格と共に其生産費を構成する原料代、賃銀、運賃、利潤等をも亦適當に抑制しなければならぬ。これ所謂生産費構成要素の調整であつて、政府も物價統制の一環として其必要を認むるところであるが、蓋しこれが實行は決して容易ではない。例へば同一財貨の生産費であつても、其財貨の生産に従事する個々の企業に依つて自ら差異があり、何れの企業の生産費を中心として調整を行ふやが先づ困難なる問題をなすであらう。又同一財貨に對しても、其用途の別に依り、或ひは其供給せらるゝ地域的方面に依り—例へば内地向、滿支向、第三國向等—夫々異なる價格の支拂はるゝこともあり得る。此時其財貨が結局價格の高き方向に流るゝことも亦、價格經濟下の現象としては止むを得ない。物價停止令等に依つて、物價は一應昨年九月十八日現在の線に釘付けせられたが諸價格、賃銀其他の間に上記の如き諸關係に於ける不均衡は多々存在したであらう。其事が今日の物資不足

状態の主因となつて居ないであらうか。

更に戦時體制以來軍需並びに生産力擴充資財確保の爲めに、重要物資の若干種に就ては民間消費需要に向つての使用禁止又は許可制、生産制限、配給割當等の諸政策が實行せられつゝある。しかしこれ等の諸統制策も亦果して所期の目的通りに、何等の摩擦なく行はれつゝあるかどうか。

凡そ斯くの如く觀察して來ると、今日人々の當面せる物價騰貴、關取引、關相場の横行、物資不足等の現象が、物資従つて我國民經濟に於ける其生産力の絶對的なる不足に起因するものなりや、將又現に行はれつゝある諸經濟統制策の過誤若しくは拙劣に原因するものなりやは俄かに論結せられ得ざることとなる。而も其何れなりやに依つて問題に對する解決の方策も自ら異り來らざるを得ないであらう。

五

經濟統制の問題に關しては、しかし尙注意を要する一事がある。即ち上に見たる如く物資の生産、配給、價格等に對しては既に相當高度の統制が實行せられつゝあるが、國民の私約消費に對しては未だ見るべき規制の行はれてゐないことこれである。而も軍事費支辨に依る政府資金の撤布、生産力擴充の爲めの金融機關に依る優先的貸出が年々巨額に行はるゝ現状に於ては國民の手に流入する貨幣所得従つて國民が消費の爲めに支出し得る購買力の量は、其消費に充用せらるべき物資の供給に對して常に過大となる。勿論貯蓄の獎勵、増税に依る購買力の吸収は努められるにしても、それは國民購買力の過大を必要なる程度まで初下げるには必ずしも充分ではない。従つて國民の消費物資に對す

る需要・供給の均衡を圖る爲めには、消費需要を削減する意味に於ての直接的消費統制が必要なのであるが此種の強權的統制は未だ實行せらるゝに至つてゐない供給に對して需要が過大である限り物價の騰貴は避け難い。其物價を單に法令を以て抑制するのみでは關相場の出現、買溜め賣惜み、物資出廻り難は蓋し必然の結果である。斯かる事態の發生は此段階に於て既に餘分の物資を買溜める者と、其日の生活必需品に事缺く者との差別を生じ、國民團結心の沮喪、生活不安、社會不安等を惹起する。のみならず勢の激するところは遂に所謂悪性インフレーションを誘發するに至るであらう。

極端なるインフレーションの状態は、幸にも過去に其經驗を有せざる我國民にとつては簡單に想像せられ難いけれども、屢引用せらるゝ如く過ぐる大戰後のヨーロッパ諸國に其例は決して乏しくない。一言にして云へばそれは現在經濟組織の破滅と、大多數國民の極貧への轉落とを意味するであらう。其如き事態に立至りては聖戰目的の達成も最早や不可能に近しと云はなければならぬ。

茲に於て吾々は今日に於ける經濟問題の重大性を正當に理解するの要に迫られる。眞劍に其對策を講じ、以て問題の解決に努めねばならない。現内閣も這般當面の經濟對策に就て(一)低物價政策の堅持、物資の増産、(二)關取引の絶滅、(三)通貨の回收、(四)一般消費の節約等を極力計ることに其根本方針を決定した。斯かる基本的方針に關する限り恐らく何人にも異議は存しないであらう。此際要望せらるゝはこれが爲めの具體的方策と、其迅速且つ適正なる實行とである。しかし其考へ得べき具體策の詳細に論及することは、

固より本文の目的とするところではない。唯一言附加するを要するは、それ等の具體的方策が何であるにせよ、それが人々の經濟生活にとつて何事を指示するかの基本的方向である。

上述せし如く今日我國に於ける物資不足の現象が、如何なる程度まで我國民經濟の生産力に於ける絶對的なる不足に基き、如何なる程度まで經濟統制の當を得ざるに原因するやば、俄かにこれを決し難い。けれども一點明かなることは我國民經濟の現状が、現在に於ける統制の緩和乃至撤廢に依つて、目前の困難を脱却し得るが如き情勢にあるのでは決してないことである。統制に罪ありとせばそれは統制の行き過ぎにあるのではなく、其方法の過誤又は其不完全なる點にある。従つて問題の解決は統制の緩和に於てはではなく、其強化、修正、整備に於て期せられるの外はない。就中從來の經濟統制に於ける一の缺陷は先にも指摘せし如く、國民消費の側面に於ける強權的規制の缺如にあつた。

従つて今後此側面に向て漸次統制の重壓が加へられ來るであらうことは、凡そ豫想せらるゝところである。強制貯蓄、重要消費物資の切符制、諸預金の引出制限等も或ひは實行せられるかも知れない。而して此事が國民の經濟生活に對する國家の煩雜なる干渉を意味することは明かであり、又多かれ少かれ生活水準の一般的低下を結果することもあり得るであらう。しかし偉大なる國民的使命達成の爲めには、生治水準の一時的低下の如きは甘んじてこれを忍ばねばならぬ。望むらくは政治の局に當る者が此所以を卒直に國民に明示し以て國民をして全き理解に基き協力を國家の經濟政策に致さしめんことである。

” 讀 ” ” 書 ”

それは必然的に或個性が現に持つ先行思惟への闘争を惹生し、或は之に溶合する。血となり肉と化した思想の母胎は斯くして靜かに創造の黎明を待つ

來島志朗

その一 「河合榮治郎著 日本評論社刊
金井延の生涯と學蹟」に寄す。

その二 支那週刊評論社編 同社刊
中國名人錄(第五集)一九三六年

その三 Dikinson, L. 3
Letters from a Chinese Official, Tokyo, 1939. 北星堂刊

或個人の學界に於ける歩みが大きくなるにつれて其抱く思想の動向は愈々學界其者の思潮に接近するし、更に一步を踏み出す事に依つて彼は之に先行する指導者の地位を獲得する、そして其指導者は此方向を目指す諸々の學究の群を率ゆる盟主の如く見えて来る。金井博士は明治三十六年所謂七博士の外交意見書を形造る一分子として當時の實社會の平面にも大きくクロオズ・アツアされて来た。この前後に於ける博士等の見覺ましい健闘は此處に織説するを要しないが、河合氏は今其得意の藍鏡に乗せて金井延の生涯を語り、彼を繞る明治の思想文化の中心潮流を眺めようとするのである。

自然主義・個人主義・自由主義の思想圏に育つた彼

は梅一輪一輪づゝの暖かさを思はず明治十年代の思想界に重要な變遷を與ふる大きな動力となつた。「四四頁」それは先づ第一に彼が歸朝間もなく我經濟界の歸趨をミル・フォーセット・スベンサーに求むべきを警告した事によつて初められてゐるが、これと共に注目すべきは明治二十四年七月「東京商業雜誌」に寄せた社會國家の有機體説の主張である。「七八―九頁」

第二に彼の足跡は「新經濟學の構成」への努力となつて現はれて来る。社會經濟學と經濟學研究方法はこの所産である。歸納、演繹の兩方法を併用して經濟學研究の根本方策を定め、當時の正當派の主張に反して政策への道を開いた。彼は事物の判斷を爲すに際して常に哲學に依據する事を忘れない、其適例は「英國革命史論」である。かようにして正統學派に代るべき最新學派の經濟學は彼の此等の著述よりも著る講義に依つて齎らされ、彼の主張は此講義の聽講者達の自己の名に於てする著述となつて表現された。(八八―一〇八頁)

學者として、教授として、大學の一員となつた彼、更に政府の政策―立法事業に参加し、將又社會教育を分擔した啓蒙思想家としての彼であつたが、明治二十年代の政治・經濟・社會の各部面に於て黎明日本の最も必要とする學問乃至は思想を獨逸に於て把握し、之を最も適當した時期に日本に移植した彼の功績は一部の多少の不満はあつても、今も、否將來に於ても不滅の光を放つ事であらう。

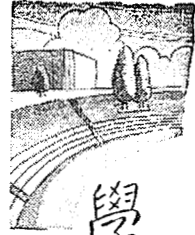
或國の一轉機の創造の辛苦を擔ひ來つた貴き思想の礎の一を拉し來つて其時代の科學の水準を卜し、社會の姿を検討せんとする傾向は明らかに近來新銳學徒の

業績に續々と現はれ初めて来た。河合榮治郎氏は之に伴ふ各種の困難を克服され、其優れたる歴史的方法に依つて此書を我々に示して呉れた。本書は此國の近來の名匠が美しく蕪る師弟愛の裡に生んだ我が師、我が岳父へのゆかしき供養の力作である。

明治時代の啓蒙科學の轍が刻んだ個々の教訓は最早吾々にとつては祖父の膝を枕に聞いた彼等の昔譚ではなくなつてゐる。

由來支那に關してはザヤイルスの名著「人名辭典」を初め、日支兩文に依る此種著述を我々は既に可成持つて居るが、或物は既に古く、或は簡に失し、英文兩文を以て氏名を表し、其の著述を列擧した手頃な著述に接しなかつた。一九一八年本書の第一集が上梓されるに及んで此缺は一應補はれた、茲に掲げた第五集は最近船載された其最新版であり、事變直前の支那に於ける凡ゆる分野の代表的指導者達を掲げてゐるが、此中には既に我々にも親しみ深い林悟堂、吳經熊、梁啓超、胡適、何炳松等の文學者乃至は社會科學者達の名も見られる。

かつて一九〇一年倫敦に於て、同三年紐育に於て同名の著述が公にされ、歐米知識人に可成の反響を與へたことであつた。一九〇六年に至つて之に答ふる書が公にされ、再び此書は讀書人の注視を浴びることゝなつた。前者は一般歐米人に對する支那文化の再認識を要望し、彼の國の傳統的文明を誇る彼等の祖國の叫びとも化してゐる。本書此興味深、著述の日本版である。



學内報

第三學期授業終了と

卒業、進級試験日割

部 別	授業終了	試験期
大學各學部第三學年	一月廿五日	自二月十三日 至二月廿七日
同 第一、二學年	二月十日	自三月一日 至三月十六日
大學豫科第一豫科三年	二月廿三日	自二月廿六日 至三月四日
同 第二豫科二年	三月四日	自三月七日 至三月十五日
同 第一、二學年	二月十四日	自二月廿一日 至三月八日
專門部第一、二學年	二月十四日	自二月廿一日 至三月八日
專門部第二部第三學年	一月卅一日	自二月五日 至二月廿日
同 第一、二學年	二月三日	自二月十六日 至三月九日

紀元節式典

光輝ある紀元二千六百年の紀元節を迎へ、本學學部及豫科は當日午前十一時より豫科講堂に於て、專門部は午前九時より專門部講堂に於て式典を舉行、神武天皇肇國の鴻業を景仰すると共に與亞聖陛下學徒の覺悟

につき神戸學長の訓話があつた。

耐寒訓練實施

本年度耐寒訓練は、大學豫科は二月十日河内私市より磐船科社に參拜、大和富雄まで行軍を、專門部一部は二月八日より十日まで三日間午前八時校庭に集合、新淀川公園に於て體操を實施した。

專門部文學科

國漢科漢文學力試験

豫て專門部文學科國語漢文專攻科に對し中等教員漢文科の無試験檢定申請中の處、一月二十五日文部省無試験檢定委員會より文部屬柴沼力氏來學、國語漢文科第三學年生徒の學力考査があつた。

專門部文學科

英語專攻科學力考査

專門部文學科英語專攻科に對する生徒の學力檢閱は去る二月五日六日の兩日教員檢定委員會より文部省嶋託風間勇美氏來學施行せられた。

人事異動

依願解職 (一月九日附)	教授	西村	信雄
任學生主事 (一月十日附)	教授	木村	健助
依願解職 (一月十八日附)	書記	山本	正男
同 (同)	書記	賴經	彰一
同 (十二月卅一日附)	二商	池田	定能
任二商教諭 (一月十八日附)	教諭	河原	重信

本學創立者

鶴見守義氏逝去

本學創立の恩人の一人從三位勳二等元大醫院判事檢事鶴見守義氏は客年十二月東京の私邸に於て長逝された。享年八十二



氏は司法省法學校第二期卒業の法律學士にして、大阪始審裁判所判事として在任中、同判事志方鍔、同檢事手塚太郎、大阪控訴院判事たりし井上操、同檢事堀田正忠、同小倉久の諸氏と協議し、時の控訴院長見島惟謙氏の贊同を得て、明治十九年十一月關西法律學校を西區京町堀の願宗寺に開校

し、爾來明治二十八年長崎控訴院部長判事に轉任されるまで、講師として、フランス法により民法を擔當し又學監として盡力された本學創始の恩人である。尙東京に於ける告別式には本學より理事武田宣英氏參列弔意を表した。

元講師 大倉鈕藏氏逝去

遺族は東京市豊島區椎名町三二(嗣子)鶴見守雄氏

本學の前身關西法律學校當時の講師大倉鈕藏氏は、東京阿佐ヶ谷の私邸にて病氣療養中の處、去る一月十四日午後零時四十五分遂に逝去せられた、同十八日善仁寺に於ける告別式には本學より理事武田宣英氏參列し弔意を表した。

遺族は東京市杉並區阿佐ヶ谷五七(嗣子)大倉堯文氏

校 友

校友會常議員會

校友會常議員會は一月十七日午後五時半より天六學舍會議室に於て開催した。神戸會長より挨拶をかねて會務を報告をなし、次いで協議に移り、會費徵收の件は集金郵便に依ること、校友會報を創刊し、第一號を四月に發行すること、校友會名は今一應會報第一號にも募集することに決定した。尙近き機會に本年卒業の學友會委員幹事の有志とも會合し、校友會につき認識と協力をもとめ圓滑なる連絡をとることとし、午後八時半散會した。

當日の出席者

神戸 會長 岩崎 卯一 春原源太郎 堀本 周三
遠部逸太郎 桂 忠雄 櫻本 信雄 神屋敷良藏
栗川 喜一 武田 榮 高梨 乙松 山崎 敬義
松原 藤山 里見 復二 神保 敏男 角田好太郎

徳島支部發會

光輝ある紀元二千六百年の劈頭、徳島縣在住校友友倚り和親協力、學外にありて母校關西大學の隆盛を圖るため茲に待望の校友會徳島支部の發會を見るに至つた。

南の四國路にも山肌は雪に蔽はれてゐる一月二十七日午後七時より徳島市兩國橋南詰「魚治」を會場とし母校より岩崎教授、校友會本部より神屋敷の兩氏を迎へ、霞岐白鳥町から出席するもの、雪の山路を踏み越

× ×

へて美馬郡江原町や、撫養町から出席する母校愛に燃ゆる熱心な會員が一堂に會し、小寺君の司會にて國歌合唱、皇居遙拜、戰歿將士の英靈に對し敬申並に皇軍將士の武運長久祈願の賦禱を捧げて議事に入り、支部會則の協議決定について役員の選出は出席の元老篠原要氏（明治二十六年關西法律學校卒業）の指名にて、支部長には縣會議員梅田鶴吉氏、副支部長には本會産みの親の一人明治四十三年卒業の實業家中田豐雄氏を推薦して満場一致賛成可決、幹事には篠原要、小寺善次郎、川端敏信、竹内幸一郎、幸田秀明、林豊、齋藤正美、橋本安信、桑原敦次郎の諸君を、その中常任幹事には林、齋藤の兩君に依頼することとした。

いよゝ茲に支部組織は整ひたるを以て梅田支部長立ちて本會發會の挨拶を述べ、海路はるゝ母校並に本部より出席された岩崎、神屋敷兩氏に謝辭をのべ、會員一致協力健實なる支部を守り立て度き旨の挨拶をのべ、岩崎教授は支部發會の祝辭を呈して母校の現況を報告し、神屋敷氏より校友會の現況報告ありて宴に入り、數こそ少けれ老も若きも一騎當千の猛者揃ひ、篠原老先輩は今こそ酒造家として納まつてゐるが、その昔、日清戰直後朝鮮進出の先驅をなした先覺者、今日の會合には草履を穿つて雪の山越に江原町から出席された熱心さ、在籍當時の憶ひ出を語り、中田氏は政界革新に奔走した青年時より、實業家として立つ商機の片鱗を見せ、梅田氏は逐鹿戰物語さては若き諸君にとつて社會場裡のよき顧問たらんと喜ばせ、若きは學

かくほう抄

- ▽河村宣介教授 一月廿七日神戸高商に於て開催の日本經營學會に出席
- ▽田邊清市教授 現住町名變更により住吉區萬代西四丁目五一と改稱
- ▽磯部喜一教授母堂 磯部教授母堂は一月十六日午後十時逝去、葬儀は同二十一日午後二時より天王寺天曉院に於て執行された。
- ▽並山興道氏（元講師） 金澤地方裁判所長より和歌山地方裁判所長に轉任
- ▽菊地宗三郎氏（元職員） 滿洲國治安部參謀司軍事課より治安部軍政司徵募課に轉勤

原稿募集

校友會報・創刊

校友の機關誌『會報』の發行はかねがね待望せられてゐたが、いよいよ陽春四月その第一號を發行し、汎く校友に配布することとなつた。就ては奮つて校友各位の御寄稿を乞ふ。

- 一、枚 數 原稿用紙四百字詰十枚以内
- 一、締切期日 三月二十日
- 一、寄稿先

大阪市東淀川區長柄中通二

關西大學校友會

友會を牛耳つた本領を發揮して意氣大いに上り、學歌の合唱、學生歌の高唱に時を忘れ記念撮影の後梅田支部長の發聲にて母校關西大學の萬歳を、岩崎教授の發聲にて校友會並に校友會德島支部の萬歳を三唱して午後十一時閉會した。

(母校より) 岩崎 卯一 神屋敷民藏
 (會員 篠原 要(明二六法) 中田豊雄(明四三專法)
 梅田徳吉(天十二專法) 竹内幸一郎(昭七六經)
 小寺善次郎(昭七六經) 川端敏信(昭九大商)
 林 豊(昭九專一商) 幸田秀明(昭十大法)
 橋本安信(昭十一專一商) 齋藤正美(昭十一專一商)
 尙支部事務所は、徳島市西横町驛前通、中田豊雄氏方(電二九六三番)に於く。



實業山莊に於ける川邊支部總會
 前列右より 富川竹治郎 深川重義 佐藤清 梅垣真一 安井章吾
 二列目右より 三原新三郎 甲川巖 中村敬次郎 上田竹松
 後列右より 川岸治作 末本宣一 井上幸雄 坂田幸一 岩井義雄 奥田嘉三 山崎正一

川邊支部

昭和十四年度總會を十一月十八日午後五時より、温泉と少女歌劇のパラダイス、寶家の榮山莊に舉行した。當日は長老會員深川重義氏が、今般伊丹町長に就任せられた祝賀をも兼ね、誠に意義深きものがあつた。

先づ支部長佐藤判事の開會の辭、引續いて深川町長に對する賀詞及び吾等同窓校友よりの希望の言葉を贈り、深川氏より又謝辭ありて一同隆々たる支部繁榮の前途に暫し歡談す、次で記念撮影をなし宴に入る。老壯背の區別なく入交つてそこに、快氣焔萬丈、加ふるに寶家の美艷宴席に侍つて歡を盡し、支部長發聲のもとに母校萬歳、川邊支部萬歳を三唱して散會したのが十時であつた。

(出席者) 佐藤 清、深川重義、川岸治作、末本宣一、井上文夫、坂田幸一、岩井義雄、奥田嘉三、甲川巖、山崎正一、三原新三郎、中村敬次郎、富川竹治郎、上田竹松、梅垣真一、安井章吾

愛媛支部

愛媛支部長市村敏夫氏は今日滿洲國新京特別市開拓總局招集處監理科に勤務せらるゝ事となりたるを以て支部會則に基き常任幹事長柴友市氏が支部長代理として盡力さるゝこととなつた。

支部所在地 伊豫郡北山崎村三島町、長整支市方

大連支部

第四十三回例会
 十一月廿日 午後六時半より監部通り「いろは」に

戦線通信

石田基治 (昭十一專二法)

皇紀二六〇〇年の新春を陣中に迎え遙かに母校の隆盛と校友諸賢の御健勝を祈上候先般は學報を陣中に御惠贈を賜はり、懐かしき母校の近況を知る事を得有難く拜讀仕候。年の改まると共に心氣を一新して緊要一番皇軍の名譽を發揚すべく益々奮勵努力を致し銃後の熱誠なる御後援に報ゆるの覺悟に御座候(十五年元旦)

今村 稔 (昭十三專二商)

戦捷第四年の新年を南支にて迎へ萬感胸に迫るものがあります。南支攻撃の戦果成つて早や一年有餘、抗日侮日の都たりし廣東も、皇軍將士のたゆみなき戦闘力と、限りなき宣撫工作とにより、見る／＼昔日の倅をも凌ぎ、更生に躍進し、業にいそしむ住民にもあけき安堵の姿が感じられ、支那の子供の唄ふ「日の丸」の歌にも皇澤が洽ねく浸みわたり、輿亞の曙光が寸前に輝き初めました。想へば勇躍征途についてより無事軍務に精勵出來ますことは皆様の御熱誠なる御後援の賜と感謝致して居ります。元旦

岡村武雄 (專二經三在學)

學報を度々御送付下されて厚く御禮申上ます。なつかしの母校と別れて早や三年となりました。陸上競技部にも若い人々が入學して躍進してゐる事でせう。なつかしの母校を見る日はいつの事でせう。皆様の御健康を祈ります。左様なら。(一一二)

清原 眞一 (昭十四大商學)

皇輝ある二千六百年の新春を遙る中支の空より御祝申上ます。遙るかに母校の隆盛と御一同の御健勝を祈る。(十五年元旦)

於て秋季大會を兼ね秀麗會第四十三回例會を開催す。

當日は差支への人案外多く、大會としては數に於て多少物足りなさを感したが、穿洞氣に於ては實に欣すべきものあり、殊に中華航空株式會社大連出張所長砂野隆君の初出席あり、大會に一層の生彩を加へた。

秋季大會ではあつたが緊急の決議事項もなく、又人數も少ないので決議事項は次期大會迄延ばすことにしたが、長老連から明年からの春秋二回の大會に於ける會費は普通例會費程度として、不足分は俺達が分擔するからとの申出があつたので、若い者最先に賛意を表す。來年のことを云ふと鬼が笑ふかも知れぬが、來年からは大會と雖も會費の心配もなく悠りと飲まして貰ふのであるから、校友各位には萬障繰合せて出席せられんことを今から希望しておく。スキ燒鍋を圍み相當メートルを揚げ、氣焔の虹に彷徨することしばし、實に愉快なる數刻であつた。武笠君獨特の和英詩吟を聞いてから一同神興をあげ、學歌を高唱し、十時散會す

當日の出席者

飯田 昇 高濱 直一 室山宇太郎 秀島 公治
砂野 隆 萩原 博 池内 謙一 西木 啓兒
早川源四郎 李 鴻年 北條 茂茂 武笠 幹雄
平井 三郎

第四十四回例會

十二月二十日 午後六時より 海務協會食堂に於て秀麗會第四十四回例會を開催す、本年最終の例會ではあつたが年末のことにて、お互ひ差支へが多かつたにも不拘、萬障繰合せて十二名集まつたことは全く嬉しかった、殊に辻菊雄君が奉天に轉勤することに決り、多忙の處を態々出席してくれたことは喜しく又一入名

殘惜しさを感ぜしめられた。

今年もお互ひ頑健に越半し得ることを喜び合ひ、殊に高濱居士は昭和十五年からは全く儲かりものゝ人生が展開するさうで次から次へと愉快なる話が飛び出して、窩々たる雰囲気包まれ國家も國民お互ひも、全く多事多難なりし昭和十四年を回想しながら、本年最終例會を終り得ることを祝福し、纏て來らんとする皇紀二千六百年の新春を新たな意氣と覺悟とを持つて迎へ大いに活躍すべきを誓ひ、午後九時半學歌を高唱し散會す。

當日出席者

飯田 昇 高濱 直一 室山宇太郎 秀島 公治
岩本三三郎 早川源四郎 萩原 博 池内 謙一
北條 茂茂 辻 菊雄 貴村 一雄 平井 三郎

新京支部

十一月例會の記

十一月廿五日午後六時より大同大街青葉グレルに於て十一月例會を開催する。大陸は早や嚴冬の季節に入り、ドアの金具にぬのを捲き馬の口にツラ、の下の十一月末だ。肌府を突き刺す様な寒風を衝いて一人二人大興ビル地階のドアを潜ると此處は又別世界、一ヶ月振りの挨拶やら統制下の商賣等最寄の話を打開けた先着の校友がある。

幹事が持参した案内状の返信を數へて首を長くして待つたが、寒さに敗けて家の内で小さくなつてゐるのが、結局六時の定刻を七時迄延ばしたが、出席の承諾に違反した者が三名、腹が減つてとう／＼待ち切れず開會する。

黒岩 未生

南支から 學窓より征途に上りて以來二年になんなんとする今日迄戰勢多忙とは云ひながら御無音の沙汰誠に申譯も無き次第です。小生は目下大廣東市を去り某地の守備に着いてゐます。三米足らずの川向ひには矩形の中に十と×の印をした歩哨と向き會ひです。附近一帶は山岳地で物資なく、家なく喰ふに食なき土民の郡は日に増し皇軍宣撫の下に活氣を呈し、我等は正義に基き平和なる一路を目指し母校の御期待に勇奮努力する覺悟です。(十四、十二、十九)

高津 壯太郎 (昭七專四一)

冬季攻勢を反撃しつつ、黃河の畔より
謹而新春の御慶申納候 元旦

田 章 治 (昭十三專一)

早々の年賀狀有難く拜見仕り候御惠送の學報にて校友の安否も知悉し得る事併せて深謝仕り候遙か本當地より御一同の御清祥を祈り上げ候 (一五、一、一三)

高 橋 重 夫 (昭十四專二)

北支の一角にて東洋永遠の平和の爲、矛を進めております、軍隊生活をして初めて知る凡ゆる恩惠の有難さ、在學時代の事ども色々思ひ出されます。正月も近づきました、長い年を迎へられん事を祈ります。

原 豊 (專二法一在學)

本日は御丁寧なる御年賀狀を頂戴仕り有難く御禮申し上げます。何分私は今度の學演練北上作戦に參加致し作年十一月二十日出發以來進撃又進撃致し有力なる敵が頑強を誇つた英徳城は何のその清遠城は何のその一たまりもなく潰えました。又後より。(一五、一、一九)

今日の研究發表擔當者は松田政二君、先ほど大同學院で南滿行政視察を了へた旅行談より演題は「東邊道を巡りて」、講師の松田君に配するに同じく學院の中村光太郎君が今日は助手と云つた形で資料を持ち込んだも持ち込んだり、兩手で抱へ切れぬ程風呂敷一杯、大祕小祕の書類迄、おまけにガリ盤で説明の地圖迄印刷して來られた用意周密さは、さすが滿洲國行政官の卵、滿洲國最高學院の面目躍如たるものあり、座談的に開けるものと幹事の速記者のと膽を抜く

もと東邊道は滿洲先住の邦人間に三江の匪賊と並稱せられた不毛僻陬唯土匪共匪の巢窟と迄認識せられた地帯である。滿洲國建國と掃匪工作との進捗、東邊道復興委員會の設置、東邊道開發會社の設立等に依り、此處に鐵、石炭の四億の埋藏量を有する東邊道の全貌がリム・ライトせられ、開發鐵道梅嶺線は鴨綠江を越へ朝鮮平壤に繋ぶ所謂大陸貫通線を完成し、「東洋のザール」として世紀の燭光を浴びるに至つたのである。

鐵礦の主なるものは、大粟子溝、七道溝、老嶺を中心に東西五十軒、南北約十五軒に及び、含鐵品位六十三%を誇る世界的富鐵を有し、石炭は鐵廠子、五道溝、煙筒溝を中心に二億噸を算し、其他、石灰石、耐火粘土等の製鐵用資源等調査の進展に伴ひ實に驚異的なものがあると豫想されてゐる。

匪賊の街、通化は今や近代工業都市への急速度の進展を見せてゐる。

話題は東邊道より、更に旅程を進め鴨綠江河岸の古代文化の街、古慣の輯安に移り、平壤の工業都市計畫更に北上して新義州より鴨綠江の聞きしに見劣つた大

ダム見物、大東港築港事情から大孤山等旅行談の面白さは何時果てるとも知れず、中に中村君の匪賊の話し迄出て一時間に徒る講演を終る。あとは質問、話しの中途此處グリル名物のそばを配る。

大西君の話す統制下の商賣戰術では目をぐりぐりさせる程な奇抜な珍談が飛び出して一同を驚かせる。



新支京二十部會例 中央は大連大連教授

戸外の温度は廿五度を下り、耳を澄ませば大同大街の高樓を動搖する嚴寒の烈風が不氣味な、うなりを立てて幽かに

に聽へる。

君、スチームの通ふ暖氣の満ちた部屋の内ではテーブルを圍み名物のそばを啜り、戸外の寒風を齒かに耳し乍らそぼくと知的な會話を續けて行く校友の集ひを想像し給へ。

十時閉店の時間を合圖に何時迄續くとも知れぬ話題を打ち切り又一ヶ月後の再會を約して閉會する。

樋口安雄 (專二商二在學)

由緒ある二千六百年は此の大陸にもほの／＼と明けました。警備に當る兵舎から皇國の春を壽ぐ歡聲が盛り上つておます。折から笑顔をみせて交替する歩哨、陣中の我々にも包みきれない喜びと満足があるのです。斯くして東亞の曙は朗かに愉快に繼續されておます。遂に諸兄の御健康を祈ります。

福地正生 (昭十二專二法)

皇紀二千六百年の聖春を白雪大地を覆ふ北滿の大平原に迎へ母國遙かに御健勝と御多幸を御祈り申上ます。私事再び重任を拜し、こゝ東部國境に關東軍唯一の〇〇〇化部隊に屬し零下三十七、八度酷寒の地に凍傷と闘ひ乍ら任務に精勵致してをります。本日は久し振に懐しい學報御送附下さいまして衷心より厚く御禮申上ます。今後も皆様の御期待に副ひ任務に邁進致します。(一五、一、一三)

増田弘 (昭十一專一商)

去る〇月〇日出征現在中支〇〇ありて専心軍務に精勵致し居り候。この上共に最善をつくし一死報國の誠を致す覺悟にて候。同窓會各位の御健康をはるかなる戰場にてお祈り申上候。(一十五)

松尾三郎 (昭十二專二商)

八百八難高鳴いて、燦然と輝く皇紀二千六百年の新春を迎ふるに方り聖壽の彌榮を壽ぎ奉ると共に銃後御後援を深謝し校友會の御繁榮を祝福致します。(十五年元旦)

松本包文 (昭十二大法)

謹賀新年

今年吹雪で年が明けました、それが二千六百年の

猶當日の出席者は左の通りである。

光井 章雄 今村 茂 大西 幸夫 松田 政二
中村光太郎 福井 真一 橋山 夢和 佐藤 丈夫

十二月例会の記

十二月十六日午後六時よりダイヤ街「祇園」に於て忘年会を兼ねた十二月例会を開催する。

前日からの雪で國都は一面の銀世界、討ち入りにも出掛ける様に馳け付けると、定刻前早くも大山教授を始め校友連十位の座敷狭ましとばかり詰め込んで花々しく舌戦の盛會だ。

新顔、舊顔、珍顔で久々の挨拶やら顔つなぎの挨拶やらで花やかな例會の雰囲気醸されて愉快の上なし。

寫眞屋さんの喜多さんが重さうに寫眞機具を背負込んだ助手君を連れてはせ付けて呉れる。宴會場が狭いと隣の部屋迄ぶち抜いて先づ座のこれはぬ中にと、喜多技師の指導よろしく一同しかつめらしい處を、パチリとやると「やあ遅くなりまして」と大北さんがひよつこり隣室から現はれる、これはいかんおいもう一度、此度は笑つてマグネシウムの煙りが部屋一杯に立ちこめて空気が抜きの二重窓を開かうとするが凍りついて動かうものか、今日は飲む例會である、煙りの退散も待ち切れぬ一同すき焼の座に、京都人經營の名前も由縁かしい「祇園」の二階、だらりの帯ならぬ京訛りの女ボーイ君のサービスよろしく、先づ一同大いに食ひ大いに飲む、中途佐藤幹事立ち上り簡単に忘年会例會の辭と、遠く母國を離れ千里萬波を越へて來つた新興滿洲帝國に於て我々は一束團結し以て祖國と滿洲國と母校とに大いに貢獻せんことを強調して座る。

軽く御神酒の利目が現はれ、ユーモアたっぷり大山

教授のロマンス披露が行はれると、何かやり度さうな校友の惡戯顔が首を持ち上げて來る、何時もの講演例會で濫面作つた某々が、「おい何かやれ」始めは低く終りは高く、よろ／＼七十八番が飛び出す、軍歌、學歌、志岐君の三々七調子拍手、先輩無し後輩なし日頃謹嚴な大山教授時折り面白い感想談に一同を哄笑せしめる。やんや騒ぎの中に「課長の送別會がありまして抜けて出るのに骨が折れました」と常連の三宅良孝君が現はれる。京訛りの女中君のサービスが益々よくなり、高踏亂舞の間に杯を持つて廻る。校友の意見は一致する期せずして校友會本部支部の連絡、活動事項の強硬意見が飛び出す。

かくして何時迄も果てし無い盛會を。中に討死する者も出來て、十時半一同立ち上り學歌を高唱して、年に一度の飲む會、親睦會を閉じた。

若さは何時迄も助長す可きだ、飲むよし歌ふよし時に濫面をつくり福祿壽の顔にもなつて大陸に活躍する校友が一致し團結する意味に於て今宵の亂舞又有意義深いものであつたことは、今さらちよろ／＼再言を要する迄も無い。

當日の出席者

大山 教授 藤田 藤一 喜多 初次 古川 一雄
大北長之輔 今村 茂 梶原 定治 岩崎 繁男
福井 真一 大西 幸夫 志岐 五六 宗内 士郎
橋山 夢和 三宅 良孝 佐藤 丈夫

海南會

昭和十四年専門部法科卒業生を以て組織する海南會に在りては、會誌の發行を重ね、移動多き會員の名簿を既に二回作製送附し稀に見る充實親睦振を續けて來たが、去る十月十二日長畑「大市」に於て第二回總會

序曲の様に思はれ心が勇躍します。國境で迎へる二度目の正月も亦格別です。各位の御健康を國境の第一線より御祈り申上げます。元且

三宅 萬吉 (大十五專經)

拜啓前略 内地は餘程寒い事でせう。皆々様御健在にて校務に御精勵下さる事を感謝します。小生もその後益々元氣奮勵を盡しておます。時に本日待ちに待つた十月學報入手早速拜見御陰にて學校内近況を知り一層心強いものがありました。現在最前線にて又常夏の南支の活躍時でもあり、頑張るとときに母校の記事に見入るのも楽しいものです。(一四、一二、一〇)

宮崎 正三郎 (昭十三大法卒)

謹しみて與亞新春を御慶申し上げます。皆様益々御元氣で御活躍の事と存じます。一層邦家のために御奮闘あらん事を戦地より御祈り申上ります。(十五年元且)

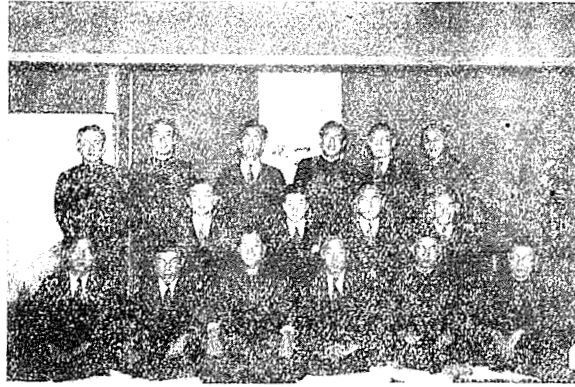
村田 滄 (昭十一專一法)

謹賀新年 當地は目下、所謂酷寒零下三十度の季節にて、寒風吹きすさみ居りますが御かげさまで元氣で御奉公致して居ります。當地には學友の兵士諸氏相當居りますので、互に勵まし合ひ活動致して居ります(二五、一、一四)

渡邊 一男 (專二法一在學)

再び南支に上陸、〇〇にて相變らず奮闘を續けて居ります。戦線銃火の中にやがて三度目の新春を迎へんとして居ります。南支の風景亦奇とすべきもの有之、いづれ詳細は後便にて。(一四、一二、二九)

を開催。先づ同僚會員中の多數の應召入營者の武運長
 久を祈り一分間の黙禱を捧げ、大谷幹事長より挨拶並
 に會の經過に就いて報告あり、役員の改選を行ひ、會
 に入る。自己紹介に入れば、興亞大業の柱とならん決
 意に満てる面々火を吐くが如き言葉に壯圖を語り、謙
 讓の中にも不屈の魂を閃かして、本會の將來性を決定



海 潮 會

猪又、西兩君の爲に福杯を擧げ、高文合格者野崎君の發
 聲で萬歳三唱、名残を惜しみつゝ、十一時近く散會した。
 尙當日の出席者氏名左の如し。
 筒井 清 野崎 春夫 高野 文助 猪又 賢治
 鴨神 烈 常陸 謙蔵 溝川 一清 古座 成夫
 辻 孝義 西 孝雄 西居 正弘 大谷 剛
 鈴木 敬夫 白石 晴哉 瀬川 清郎 野村 廣義
 海南會東京支部出席者
 井上 成章 築山 隆一 赤阪 寛 齋藤 年生
 三上 松雄 竹内清治郎 駿河 清

づけ、
 東京よ
 りの政
 田恩師
 の祝電
 に拍手
 を送り
 盛大な
 餘興に
 入る。
 拍手喝
 采、抱
 腹絶倒
 するこ
 と實に
 三時間
 入營者

會 員 消 息

秋山 靜吾君(昭十三專二商) 兵庫縣川邊郡立花村水室
 加茂二五に轉居

井上 清武君(昭二大商) 松山市伊豫鐵道電氣株式會
 社本社より同社西條支店に轉勤

市村 敏夫君(昭二專法) 愛媛縣藤を辭し、滿洲國開
 拓總局招集處監理科に轉勤

伊東 祐一君(昭三 大商) 北鮮日々新聞社勤務朝鮮威
 北羅南本町八四に轉居

池田彌一郎君(昭六 大法) 堺市役所を辭し、厚生省職
 業主事補として大阪市西野田職業紹介所に勤む

市島 正雄君(昭八專二商) 兵庫縣川邊郡伊丹町大鹿五
 ○に轉居

生島幸三郎君(昭十 大法) 泉北郡濱寺町船尾七〇二に
 現住

畠 光好君(昭十專二法) 警部、戒警察署より府經濟
 保安課に轉任

今村 稔君(昭十三專二商) このほど應召勇躍征途に
 つかる

上岡 活道君(昭三 專法) 奉天市大和區彌生町三九に
 現住

上田 治雄君(昭七 專法) 第一相互住宅株式會社理事
 兼總務部長、住所は三島郡茨木町西外之町

植田 弘君(昭十一大法) 南出と改姓、東京市麹町區
 代官町近衛師團司令部勤務、住所は澁谷區藤田一
 ノ一四四、參道莊

齋藤 司君(昭十四大經) 陸軍經理學校を卒業し、平
 磯歩兵第七十七聯隊本部付主計中尉、住居は平壤
 府東町陸軍官舎第九號

大山 彦一君(前商會員) 昨春關西大學を辭し、滿洲
 國立建國大學教授に任ぜられ、民族學、國家學を
 擔任、昨年中は至滿各地並に北支古蒙方面を調査
 旅行された。先般居を新京南湖第六代用官舎六八
 四に移轉

大野 政一君(昭二 大法) 滿洲國興安北省新巴爾虎右
 翼旗に參事官として

織田 正一君(昭四 大經) 警部に任ぜられ、府經濟課
 安課より堺警察署へ轉任

岡田 孝道君(昭十二專二法) 日本生命保險會社本社よ
 り愛媛縣宇和島市同社出張所助役に轉勤

岡本 操君(昭十四大商) 奈良歩兵第卅八聯隊第三機
 關銃中隊第五班に入營

川野 勳平君(昭三 專經) 株式會社晃富洋行取締役社
 長に就任、宛名は大連市常盤町三、永喜ビル、晃
 富洋行

角谷 文雄君(昭九 大法) 池田警察署より經濟保安課
 へ

加部 守彦君(昭十一專一法) 去る八月卅日滿蒙國境ノ
 モンハンの激戦に壯烈なる戦死を遂げられ、二月
 八日大阪驛着無言の凱旋さる、告別式は同日午後
 一時半より舉行、遺族は住吉區田邊東ノ町六ノ三
 四、父加部胖氏

木村 末松君(大十五專法) 警部、奈良縣御所警察署長
 より下市警察署長に轉任

北川 靜雄君(昭七 大政) 檢事に任ぜられ、京都地方
 兼區裁判所檢事局に勤務さる、住所京都市左京區
 下鴨宮崎町一六六

木原 仙次君(昭九專二法) 港區九條北通三ノ五四四に

於て電機商を管む

木村 信雄君(昭十一大法) 警部補に任ぜられ、中本署より朝日橋署へ

岸本 毅君(昭十二專二法) 上海四路阿瑞里一號、上海恒産株式會社に在勤

桑本 重吉君(昭九專二法) 平野警察署より府經濟保安課へ轉任

子原 一夫君(昭八專二法) 金澤區裁判所豫備檢事より安濃津區裁判所檢事に任ぜらる

佐臨 利吉君(大十 專法) 今般大津警察署警部補退官坂倉 久治君(昭四 專法) 金井針布製造所勤務、兵庫縣川邊郡稻野村寺本水掛一六ノ一に轉居

濃川 俊郎君(昭十 大法) ラサ工業株式會社東京支店に轉勤、住所は東京市中野區中野驛前一五、アパ一ト松園莊

實成 清君(昭十專一法) 大阪府學務部職業課社會事業主事補、住所は旭區新森小路北一ノ一三六

志賀 澗君(昭十一專二法) 愛媛縣西條警察署大保木駐在所に轉勤

鈴木 春季君(大八 專法) 檢事、松山地方裁判所檢事局より米子區裁判所檢事局に轉任

鷺見 幸雄君(昭九專二商) 滿洲電業會社安東支店より同社四平街支店に轉勤

住野 義治君(昭十二專一法) 昭和十五年二月二日逝去

田町 昌義君(昭 專) 南地五花街土地株式會社々長就任

竹澤喜代治君(昭九 大法) 判事、小樽區裁判所より堺區裁判所に轉任、住所は堺市大濱北町九ノ八八

高原 盛男君(昭十專二法) 大阪府情報課警部補を退官

寺尾 全一君(昭八專二經) 上海揚樹浦路二〇八六、同興紗廠在勤

富井 祥夫君(昭十四專二英) 北支の戦線に於て奮戦、護國の華と散られ、去る二月四日神戸驛著無言の凱旋をされた。遺族、神戸市湊東區相生町三ノ五五(父)富井彦太郎氏

中川 順海君(昭八專二經) 大阪中央郵便局外國郵便課より大阪逓信局海事部に轉勤

西浦 堯三君(昭八 大法) 堺刑務所教護課より京都刑務所作業課に轉勤、住所は京都市東山區山科東野官舎

野崎 正雄君(昭三 大法) 警部補、今福警察署より川口警察署保安係に

羽賀 一郎君(昭二 專商) 計理士、事務所を天王寺區北山町三七(電天王寺二八一三)に移轉

阪東勇次郎君(昭三 大商) 本年一月三日南支潮安縣楓溪の戦闘に於て壯烈なる戦死を遂げらる。遺族は天王寺區細工谷町三六、妻久子氏

長谷川初太郎君(昭七 專商) 中河内郡繩手村河内額田警察署河内駐在所在勤

萩野 充雄君(昭十二專二英) 福昌公司に入社、青島上海路六〇號の青島支店商事部に勤務

平田喜一郎君(昭四三專商) 日本憲兵隊天津隊に勤務

北條 茂義君(昭九專二法) 應召中の處この程歸還、住所は奈良市初音町七五

保延 茂君(昭十專二法) 東區北久寶寺町四ノ一八にて船場書店の名稱にて出版業を開業、電話船場三七九番

松野 竹雄君(昭九專二法) 東淀川區三國町八六に轉居

森本 德雄君(昭六 專經) 東亞海運株式會社船部海務課勤務、東京市澁谷區代々木新町八三に轉居

山本 勝市君(推 專) 國民精神文化研究所員、東京市麻布區狸穴町三一に轉居

横山 茂樹君(昭十四專一商) 滿洲國國務院官需局經理科監査股に轉勤

〇二月十一日大阪府の警察部の異動により

山本 克己君(昭五 大法) 警部補、堺署より川口署へ

伏谷吉兵衛君(大十一專法) 同 會根崎署より中本署へ

澁川 繁夫君(昭七 大法) 同 戎署より經濟保安課へ

川西 武治君(昭六 大法) 同 守口署より經濟保安課へ

山之口初義君(昭十 大法) 同 今福署より刑事課へ

中村貞次郎君(昭八專二法) 同 九條署より島之内署へ

福原 克己君(昭七 大法) 同 岸和田署より今宮署へ

藤野 春三君(昭七 大經) 同 八尾署より住吉署へ

兒玉市太郎君(昭九 大法) 同 堺署より工場課へ

野田 平三君(昭四 專英) 同 任警部補、特高課より十三橋署へ

井田 太郎君(昭十一專二法) 任警部補、特高課より經濟保安課へ

高級圖書



二十段家書

大阪府警部御前入 電話四四七三

商業研究会

日本も神人の創成期から、無限大の時間が流れてこゝに二千六百年、その流れてゐる中に永遠なる平和秩序の建設者たる天の冥命を荷ひ、自からの實力を積んで大きな局面を展開してゐる。この默然として來つた二千六百年の第一歩を迎へる吾等は、黙々として之を迎へてはならない。吾等は現状を打破して眞の「類ひなき此の學園」の建設に又文化の殿堂を、この學園に打立てる意氣と熱をもつて第一歩を踏んで行かう。事業を回顧すれば。

十一月七日 「商業組合」なる題目にて荒木君の研究報告を聞き討論會を開催する。

十一月十日 社會見學を吹田のビール工場にて行ふ、會員一同新知識を滿喫して歸る。

十一月二十四日 論題「第二次歐洲大戰の動向について」の下に討論會を開催す、會員一同討論に酔ひ、會を有意義に終へた。

十二月二日 昭和十四年度秋季總會並びに送別會を心齋橋に於て開催す

會長森川教授の送別の辭あり、一日を卒業生の勞を犒ひ共に語りつゝ過した。

十二月十八日 機關誌「商業研究」第七號を發刊す。

一月二十六日 社會見學を大阪造幣局にて行ふ

幹事長荒木君が此度學友會委員になられたので長井君が新幹事長に就任、長井幹事長の下に新活躍することゝなつた

東亞研究会 (専門部)

○昭和十四年十二月九日午後五時半より

梅田新道宇治電ビルに於て送別會開催す。先輩野呂、石田、高橋諸兄を始め卒業生五名及全會員出席、和氣霏々裡に九時散會

○昭和十五年度最初の討論會を一月二十五日(木)午後三時より第三十九教室に於て開催す。論題は左の通り

「蒙疆」に就いて商二中井政徳君集ふ會員十五名盛會裡に終了す。

庭球部

昭和十五年度新年オープンーナメントが一月二日より中百舌鳥コートに於て舉行され、ダブルスでは寺本、北村組が準

決勝で惜敗したがシングルでは廣瀬が簡單に覇權を握つた。

ダブルス

一回戦

(寺本(關大) 6-1-2 (松井(中モズ) 北村(關大) 6-1-1 (原(中モズ)

二回戦

(寺本(關大) 6-1-0 (辻本(慶應) 北村(關大) 6-1-4 (兄弟)

準々決勝

(寺本(關大) 6-1-2 (高山) 北村(關大) 6-1-2 (岸田)

準決勝

(寺本(關大) 2-1-6 (宮城(中モズ) 北村(關大) 3-1-6 (鹿島(中モズ)

シングル

三回戦

廣瀬(關大) 6-1-2 (大原(名古屋) 廣瀬(關大) 6-1-3 (大原)

準々決勝

廣瀬(關大) 6-1-0 (芦田(大商大) 廣瀬(關大) 6-1-1 (芦田)

準決勝

廣瀬(關大) 6-1-2 (上林(中モズ) 廣瀬(關大) 6-1-4 (上林)

優勝戦

廣瀬(關大) 6-1-0 (宮城(中モズ) 廣瀬(關大) 6-1-1 (宮城)

千里山馬術部

十二月十七日 京都練兵場にて第十回三都對抗學生馬術大會が開催、本學より廣谷前主将及び安藤新主将三年連続選

抜さるゝも不幸廣谷病に倒れ出場能はず、安藤のみ参加大いに奮闘せしも關西側惜敗す。

第十一回

法學研究會員募集

我が關西大學法學研究會は回を重ねること茲に十回!! 既に七拾名に垂んとする在野の士を法曹會に送り、益々堅實發展振りを力強く示してゐる。加ふるに御指導に預る諸先生方の懇切熱誠なる賜物と會員諸氏の努力は昨年の如き本校出身者高文合格者十六名中十四名を有する如き以て其の如何に本會が高文受験目的の士にとつて好伴侶缺く可からざるを推知せしむるものである。

其歴史光榮ある、第十一回研究會は來る四月七日より當天六學舎に於て開始す高文受験に努力奮勉必勝を期する士は擧つて入會あれ。來れ!! 俟つ!!

追而來る四月三日當天六學舎に於て入會試験を行ふ、希望の士は其旨左記宛通知されたし

關西大學法學研究會

北區堂ビル三階本崎法律事務所内 福村 敏 雄 宛

一月九日 園田馬術講習所にて第十五回慶應大學對本學馬術定期戦を舉行、今回は廣谷病にて出場不能の爲め止む無く本學は新人軍を以て對抗せしも、試合不馳れの爲め新人中に不運の失敗多く遂に敗退し此處に七勝一引分けの同率と成る。

二月四日 全關西學生馬術爭鬪戦Aクラス戦が堺騎兵第四聯隊にて舉行、前年度準優勝校たる本學は病癒えし廣谷舊首將安藤現主將を始め岡村、齋藤、森、加藤中堅選手を網羅しての強力陣を以て参加、準優勝戦にて大會優勝候補關大對大高密の決戦は終始白熱戦を展開、其間廣谷、岡村兩選手其く勇戦奮闘せしも勝運無く遂に長蛇を逸す成績左の通り。

準優勝關大	馬名	大高密
◎岡村	下澄	戸田
加藤	川玉	濱田◎
森	野杉	栗田◎
齋藤	大池	森◎
森本	上東	播岡◎
柿原	枋新	萩原◎
安藤	猷泉	兒玉◎
◎廣谷	館盛	水田

—212 合計 —193

フエンシング部

東京遠征

十一月廿三日 對明治大學第二回定期戦(於明大體育館)
接戦の末本學二ヶ年連覇なる

關大2	フルール	フルール
4	エツペ	8
14	サーベル	14
4		4
	1	明大

第一戦のフルール戦は八對八となり本學突敵の差三本にて辛勝、第二戦のエツペ戦に大敗、こゝに兩軍一勝一敗となり俄然次のサーベル戦に勝敗の鍵は握られてゐた。本學の二ヶ年連覇の夢なるか、明大の雪辱なるか、場内は一瞬興奮と緊張の重苦しい場面を展開したが、本學の至寶のサーベル陣(木戸、木村、溝淵)はその重苦しい感情の波を輕快に打ち破つて快勝、こゝに再度東都の強剛明大を我が軍門に下したのである。

因みに主審にチエツコ選手ザヴリンスキー氏、副審に世界的名選手岩倉氏を配した審判陣は大學對抗戦としては滅多に實現出来ぬ豪華なもので、それ丈この定期戦は忘れられぬ感銘を與へて呉れた。

十一月廿四日 玉澤道場にてザヴリンスキー氏、岩倉氏の指導を受けた。この練習時間一時間半に及び懇切に御指導下された兩氏に對して心から感謝の意を表しつゝ、道場を後にしたのは夜も大分深けた十時頃だつた。

關大3	フルール	フルール
10	エツペ	6
6	サーベル	2
0		0
	0	専大

十一月廿五日 對専修大學(於専大道場)
本學三種目に全勝輕く専修を一蹴す

フルール戦に木戸主將善戦し四勝一敗佐野(慶應)と同率となる。木戸第一戦の收(慶應)に敗れたが、次の島(大商)菅原(専修)山西(同志社)佐野(慶應)を破り四勝一敗、第一位となつたが、佐野(慶應)も木戸に破れた丈で同率となり、明廿六日再び兩雄劍を交じへることとなつた。

十一月廿六日 同大會(第二日)於國民體育
第一位決定戦に木戸輕く佐野を破り
全日本選手権を獲得す
再開された第一位決定戦は全日本選手権を掌握するか否かの晴れの槍舞臺であるためか木戸、佐野ともに慎重に對峙して洋劍は容易に動かさず、息詰る場面を展開したが、團將木戸よく攻勢に出で遂に五對三で佐野を破り、全日本選手権を獲得、名譽あるザヴリンスキー杯を戴いたのである。

尙サーベル戦に全關西選手権を掌握した木戸主將は全日本選手サーベル戦に出場したが連日の奮戦とフルール戦優勝にやゝ疲れを見せ、全日本第五位となつた。因みに東京遠征のメンバー左の通り、(學年順)木戸準一郎(主將)木村謙、八尾壯比古、水間通夫(マネージャー)山口吉雄、谷木邦三、溝淵園治、横山寛松本信弘

柔道部(専門部一部)
◎首幣大社大島神社第十一回近畿柔道大會昭和十四年十一月二十六日
第一回戦 阪急 不戦勝 本校◎
第二回戦 住友電氣工業 本校◎
先 森尾 引分 本村
二 伊藤 引分 大西
中 濱田 引分 望月
副 箕野 逆 綿谷○
大 吉永 引分 石村

先鋒本村君よく優勢に出でしも時間なく引分、續く大西君よく戦ひ引分、中

堅望月君立又寝技に出でしも引分く、綿谷君今とばかり一寸時にて軽く箕野君を敗る、石村君責任を重じよく引分け一對〇にて三回戦に進む

第三回戦

關大二部 關大一部◎

- 先 辻 引分 本村
- 二 原 背負投 大西◎
- 中 安部 引分 望月
- 副 山本 引分 綿谷
- 大 津田 引分 石村

先鋒本村君立技に進み一本定まつたと思も無く引合く、大西君立つや得意の技見事定まる、以後次回戦の爲よく敵の自重しよく引分く、

準優勝戦

- 大阪税關 本校◎
- 先 栗原 内股 本村◎
- 二 安部 引分 大西
- 中 米澤 引分 望月
- 副 山井 大外 綿谷◎
- 大 和田 引分 石村

先鋒本村君立技に進み技有り取り又も一技掛けんとする時胸を病み一時別れたけれどよく戦ひ立技に進む内最後の技見事定まる、大西君も立技に足掛に技有を取り引分き、望月君敵は何ものぞと次回戦の爲平凡に進む、綿谷君又も立つや見事定まる、石村君内股成らず巻込に技

有りを取り寝技に移る時相手肩を病み引分く。次に待望の優勝戦に進む相手校たるもの全國高専の雄關西學院である我が軍なんぞ恐れんや

優勝戦

- 關西學院 本校◎
- 先 谷端 肩車 木村◎
- 二 稻見 引分 大西
- 中 千葉 引分 望月
- 副 坂井 肩車 綿谷◎
- 大〇小溝 巻込 石村

此の戦に先鋒本村君前戦に病み木村君出場す、先鋒本村君立つや元氣よく戦ひ相手の掛ける裏を取り見事肩車定まる、大西君も氣持よく元氣に戦ひ兩者一對一の中に引分く、望月君もよく戦ひ望月君は立技に千葉君は寝技に相對立し平凡に終る。最後の戦と猛然と立ち上りたる綿谷君見事坂井君を敗りここに見事優勝決す。

山岳部 (専門部一部)

一月十二日より三日間にわたり伊吹山に於て冬季スキー行事を舉行せり
十二日午後七時八分學友諸兄の見送りを受け勇躍大阪驛を出發目的地に向つて急行する。
十時丁度近江長岡驛着積雪二尺餘の悪路を淡い懐中電燈の光を頼りに難行軍の

末十一時過伊吹山麓瀧澤旅館に到着、明日の楽しいプランを夢みながら疲れた身體を横にする。

翌十三日伊吹一合目に於いて早朝より白銀を蹴つて登行に滑降に廻轉に縱横無盡に活躍する、又午後には襲來し來る吹雪の内で激しい寒氣と戦ひ乍ら酷寒にある皇軍將士の御苦勞を偲びつゝ全員益々元氣旺盛、非常時青年の意氣を十二分に發揮して大いに頑張る、

十四日(日曜)愈々今日で最後だ、早朝よりスキーヤーの群が長蛇の列をなして山へ山へと續いて居る、一合目に來て見れば人、人、人の群、日曜とは云ひ乍ら私等は唯呆然とするのみ。

一同勇躍三合目に登行し心置きなく練習、一時過下山し二時四十分發の列車で無事歸阪する、大阪着五時三十分
参加者 寺島、田中、吉田、小島、川端、松村、米澤

ホツケ一部

◎昭和十五年度劈頭の戦に快勝す
一月二十七日十五年度新メンバーにて常勝軍神戸外人俱樂部と對戦し左のスコアにて勝つ
關大2(2011)1神戸外人(於神戸東遊園地)
尙當日のメンバー左の如し

- 邊永木本本
- 田富久山吉
- R.W. { R.I.C.I.W
- F.W. { R.B.H.L.B
- H.B. { H.C.H.L.B
- F.B. { R.B.L.B
- G.K. { I
- 山下

- 本年度ホツケ一部役員!
- 主 將 久木秀太郎
- 副 將 天野正
- マネージャー 井村悦三
- 會 計 萩原光三
- (専門部)
- 主 將 飯沼件次
- マネージャー 藤井清志
- 會 計 吉本光男

大正十一年六月十五日創刊
昭和十五年二月十日印刷
昭和十五年二月十五日發行
大阪市東區長橋中道二丁目十二番地
關西大學
編輯人 神屋敷民藏
印刷所 谷口印刷所
發行所 關西大學學報局
大阪市東區長橋中道二丁目十二番地

關西大學
天六學舎 大阪市東區長橋中道
電話 二〇三九
本部電話 二七五
庶務課 二六七
千里山學舎 大阪市外千里山
電話 四一六三
電話 四一六三

生 徒 募 集

募 集 人 員

第一學年 約二〇〇名

願 書 受 付

第一期 三月一日ヨリ同十九日マデ

第二期 三月一日ヨリ同二十六日マデ

大阪市東淀川區長柄中通二

關西甲種商業學校

電 掘 川 一 五 六 〇 番

入 學 考 査

第一期 三月二十日 (人物考査)

二十二日 (人物考査、身體檢査)

二十三日 (人物考査、身體檢査)

第二期 三月二十七日 (人物考査)

二十八日 (人物考査、身體檢査)

二十九日 (人物考査、身體檢査)

(入 學 案 內 呈)

募 集 人 員

第一學年 (高小卒) 四學級 約二〇〇名

出 願 期 限

二月十二日ヨリ三月二十二日マデ

日曜祭日ヲ除キ午後四時ヨリ同六時マデ受付

大阪市東淀川區長柄中通二

關西 第二商業學校

電 掘 川 一 五 六 〇 番

入 學 考 査 (人物考査、體格檢査)

三月二十三日 (土) 午後五時ヨリ

又ハ 三月二十四日 (日) 午前九時ヨリ

本 校 の 特 色

▽夜間甲種商業・修業年限四ヶ年

▽上級學校入學連絡(關西大學豫科及專門部無試験入學ノ特典アリ)

(入 學 案 內 呈)

關西大學學生募集

大學部

出願期間 二月一日ヨリ三月三十日迄
 試驗期日 四月一日

法文學部——法律學科、政治學科
 哲學科、英文學科
 經濟學部——經濟學科、商業學科

大學豫科

出願期間 二月一日ヨリ四月二日迄
 試驗期日 四月四日・五日

第一豫科 (三年制)
 第二豫科 (二年制)

專門部

出願期間 三月一日ヨリ三月三十日迄
 試驗期日 第一部 四月二日・三日
 第二部 四月七日

第一部 (晝) 法律學科、經濟學科、商業學科
 第二部 (夜) 法律學科、經濟學科、商業學科、國語漢文專攻科、英語專攻科

學則送呈

(郵券三錢)
 豫科、學部八千里山學舍庶務課
 專門部六天六學舍庶務課

(番三二一田吹電) 山里千外市阪大
舍學山里千科豫・部學

(番九三〇一川堀電) 通中柄長區川淀東市阪大
舍學六天部門專